

# ドビュッシー／『放蕩息子』& ビゼー／歌劇『ジャミレ』

\*演奏会形式(日本語字幕付・原語上演)

## 新時代の到来を告げる、 二つの「明けの明星」



©Hikaru. 7

**革新的な名作の前には  
助走段階に等しい意欲作が存在する。  
近代の作曲家ドビュッシーとビゼーの  
「隠しおおせぬ輝き」にこの秋は要注目だ!**

来る10月、東京芸術劇場が誇る人気のシリーズ「コンサートオペラ」が、日本ではなかなか演奏機会のない舞台作品、ドビュッシーの《放蕩息子》とビゼーの《ジャミレ》を演奏会形式で上演する。この2作はともに、「音楽史の明けの明星」として、大作曲家たちの輝かしい未来をそれぞれ予見するもの。実演に接したなら、「やがて来る新時代」の勢いが確かに聴きとれることだろう。

### 紫水晶の輝きを持つ「聖書由来のカンタータ」

歌の世界において、印象派の巨人ドビュッシーといえば、歌劇《ペレアスとメリザンド》(1902)がプラチナの光沢を放っているが、楽壇の登竜門たるローマ賞で第1位を獲得したカンタータ《放蕩息子》(1884)も、聖者が好む紫水晶のように、清々しい燦めきを宿す注目作であり続けている。物語は、古代の中東を舞台に、出奔した息子アザエルの帰りを待つ母リアと父シメオンの心模様を描き、最後には親子三人が再会して喜びあうというもの。コンクールの課題曲なので20分ほどの小品だが、そよ風のように柔らかな管弦楽が砂漠の果てしない地平線を思わせて、想像以上に広がりのある一作になっている。

本作の聴きどころとしてまず挙げたいのは、始まってすぐのリアのアリア〈来る年も来る年もむなしく〉。息子の帰還を信じる母親が悲痛な胸の内を吐露する一曲だけに、ドビュッシーの音作りではメロディが最もはっきりしており、コンサートで歌われることも多い名旋律である。

さて、10月のステージでこの母親役を歌うのは、これまで娘役のイメージが強かった国際派ソプラノ、浜田理恵。「でも、フランスではもう歌っているんですよ!」と温かい声で話す彼女は、名指揮者ミシェル・ブラッソンのもとでこの役を既に2度務めているとのこと。「おかげさまでディクショ(発語法)の大切さ

が身に付きました」と控えめな口調で語っていたが、今回指揮台に立つ佐藤正浩も、同じくブラッソンの薫陶を長年受ける気鋭のマエストロである。彼の手兵のオーケストラ、ザ・オペラ・バンドも、新しいコンサートマスターを迎えていっそう充実した演奏を聴かせるはず。実力派の歌声と共に大いに期待してみたい。

### 想像力が生み出したオリエンタルな音の画像

続いては、異国情緒の第一人者ビゼーについて。スペインを舞台とする傑作《カルメン》(1875)は、今や世界一有名なオペラとして人口に膾炙しているが、その直前に作られた《ジャミレ》(1872)は、エジプトの移り気な王子アルーンに恋した女奴隷ジャミレが、相手にひたすら尽くし愛を捧げることで、男心を見事に射止めてしまうという喜劇調の一作。王子の従者スプレンドリアーノが狂言回しを務め、合唱団と共に舞台をにぎわせる。

今回ジャミレを歌うのは、オペラ界の第一線で活躍するメゾソプラノ、鳥木弥生。深い響きの声音を有し、宝塚の男役を思わせるきりとした容貌の持ち主だが、実は彼女もこのジャミレの役を既に演じているとのこと。「フランスの歌唱指導の第一人者、ジャニーヌ・レイス先生に教わって、クレルモン＝フェランで舞台に立ちました。ジャミレって、解放してあげると言われたのに、逆に『貴男の奴隷でいたいよ』と言って愛の勝利を得る女性でしょう。なかなかそんな人いないと思いますが(笑)、歌うのも2度目ですから、心理描写をより深めたいですね!」とはきはきと語っていた。

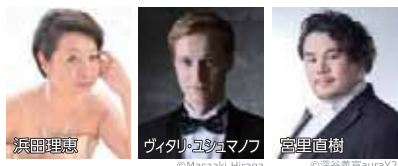
《ジャミレ》といえば、《カルメン》をも上回る「エキゾチックな音の画像」が満載のオペラである。すっ呆けた味わいの序曲から蠱惑的で涼やかな女声合唱へと続く冒頭部、躍動感に満ちる中間部の男声コーラスなど、まさしく絶品と思う。この機を逃さず、ビゼーのイマジネーション豊かな旋律美にたっぷり浸ってみてほしい。

文:岸純信(オペラ研究者)

10月26日(土) 14:00開演 コンサートホール 詳細はHPへ  
指揮:佐藤正浩 管弦楽:ザ・オペラ・バンド コーラス:国立音楽大学合唱団

#### ■ドビュッシー／『放蕩息子』

リア:浜田理恵  
シメオン:ヴィタリ・ユシュマノフ  
アザエル:宮里直樹



浜田理恵

ヴィタリ・ユシュマノフ

宮里直樹

#### ■ビゼー／歌劇『ジャミレ』

ジャミレ:鳥木弥生  
アルーン:樋口達哉  
スプレンドリアーノ:岡昭宏



鳥木弥生

樋口達哉

岡昭宏



2017年度 コンサートオペラvol.5 ビゼー／歌劇『真珠と切』

©Hikaru. 7

東京芸術劇場オルガン講座 第78回 夏休み -特別編-

# 芸劇のオルガンを たっぷり楽しもう!

## 夏休みは親子で楽しむ パイプオルガン

東京芸術劇場コンサートホールには、世界に誇る素晴らしいパイプオルガンがあります。夏休みは親子でたっぷりオルガンの響きを味わい、そして楽器について楽しく学びましょう!「パイプオルガン講座 2019 夏休み-特別編-」は、親子で参加できる豪華なオルガンコンサートと、こうさくコーナーの2本立て! -コンサート-は3歳以上から入場でき、-こうさく-は小学校4年生以上が対象です。

オルガン演奏前の「プレ・コンサート」には、芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミーの金管五重奏が登場。トランペットやホルンなどの楽器紹介もあるのでぜひご注目を。

今年のオルガンの演奏者は、山口綾規さん。J.S.バッハの名曲「主よ、人の望みの喜びよ」や、オルガンと金管五重奏による迫力のサウンドでジグー作



©Hikaru, 7

曲「大合唱の応答」もお楽しみいただけます。また当日は、ぜひ何か楽器を持ってきてください。リコーダーや鍵盤ハーモニカなど、身近な楽器でも大丈夫。みんなでミュージカル『サウンド・オブ・ミュージック』の「ドレミのうた」を合奏しましょう。楽器がなくても歌で元気に参加してくださいね。

-こうさく-では、オルガンのパイプのように、本当に音が鳴る紙パイプを作ります。夏休みの自由研究にもぴったり。作ってみると、楽器がどんな仕組みなのかよくわかります。手作りしたパイプを使って、舞台上で小さなオルガンと一緒に演奏体験も。暑い夏の1日を、涼しいホール内のオルガンとともに楽しく過ごしましょう!

文: 飯田有抄(クラシック音楽ファシリテーター)

8月1日(木) 13:00開演 コンサートホール -コンサート- 親子で楽しめるパイプオルガン・コンサート \*プレ・コンサート 12:30~12:50 詳細はP15へ  
14:00開講 コンサートホール -こうさく- 夏休み!紙工作で紙パイプを作ろう!

## NEO-SYMPHONIC JAZZ at 芸劇

構成・作編曲: 挟間美帆

## クラシックに 演奏されるべきジャズの 過去、現在、未来

もともとクラシックを学び、その後、ジャズへ向かいジャズ作曲家になった挟間美帆は、ジャズとクラシックの接点を探り続けてきた。今やその音楽は現代ジャズ・アンサンブルの枠にとどまらずジャンルを超えた彼女だけのオリジナルなものになり、近年はNYのジャズ・アンサンブルのキーパーソンとしてその評価も定着し、ヨーロッパの名門ビッグバンドからのオファーも絶えない彼女だが、その根底にはクラシックがある。

そんな彼女はこれまでのインタビューの中でクラウド・オガーマンに代表されるジャズと管弦楽の境界線上にいた作編曲家に幾度となく言及してきたが、その延長で「バーンスタインとガーシュウィンで終わりじゃなくてマリア・シュナイダーみたいな人の作品もクラシックの人たちに演奏されるようになって欲しいし、されるべきだと思う」とも語ってきた。

挟間美帆はずっと前から、『NEO-SYMPHONIC JAZZ at 芸劇』のような機会を待っていたのだ。

その特別なステージのために挟間が選んだのがシャイ・マエストロだ。今やNYに欠かせない世界最高峰のピアニストとなり、名門ECMからリーダー作をリリースするシャイは、エレクトリックミュージックからクラシック、現代音楽、イスラエルの民族音楽まであらゆるものが溶け込んだジャズを弾きこなす。

ジャズと管弦楽の歴史をリスペクトしつつ、現在、そして、その先の未来を示すようなこの2人にしか表現できないステージになるはずだ。

文: 柳樂光隆(ジャズ評論家)



8月30日(金) 19:00開演  
コンサートホール

\*18:40より挟間美帆によるプレトークあり

構成・作編曲: 挟間美帆  
指揮: 原田慶太楼  
ピアノ: シャイ・マエストロ  
管弦楽: 東京フィルハーモニー交響楽団

詳細はP16へ



挟間美帆 ©HiroYukiSeo



シャイ・マエストロ ©Gabriel Baharlia



トーキョー・メット・サラダ・ミュージック・フェスティバル2019

# TOKYO MET SaLaD MUSIC FESTIVAL 2019 サラダ音楽祭



東京都交響楽団



大野和士



©Herbie Yamaguchi

## 新企画にも注目のサラダ音楽祭

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、文化芸術イベントも盛り上がりを見せる中、今年も「サラダ音楽祭」がパワーアップして開催される。

### 2019年は日数・場所・プログラムを拡大!

「歌う! 聴く! 踊る!」=Sing and Listen and Dance!!(頭文字SaLaD=サラダ)をテーマとする「サラダ音楽祭」が、昨年について今年もバージョンアップして開催される。メインプログラムの期間は9月14、15、16日の3日間に拡大!東京都交響楽団が登場するコンサートホールをメイン会場とし、今年はシアターイースト、シアターウエストでも新企画がスタート。昨年大人気だった多彩なワークショップも、リハーサルルームなどで3日間とも開催される。さらに池袋のショッピングエリアや、多くの人々が集う駅周辺のスポットもミニコンサート会場に様変わり!都響メンバーによる室内楽や、新国立劇場合唱団メンバーによる声楽アンサンブル、芸劇ウインド・オーケストラ・アカデミーメンバーによる楽しく本格的なパフォーマンスが街中で繰り広げられる。ワクワク、ドキドキ、だれもが音楽の楽しさを体で感じ、表現できる音楽祭なのだ。

### 多彩なコンサートやワークショップ

音楽祭のメインとなるオーケストラのコンサートは2種類。ひとつは「赤ちゃんOK! 歌ってOK! 踊ってOK!」とOKづくしのコンサート「OK!オーケストラ」だ。



0歳から参加できるこのコンサートでは、クラシックの名曲のほか、ディズニーやスタジオジブリの楽しい曲もプログラミング。指揮者体験で体を動かし、合唱コーナーで元気に声を出そう。赤ちゃんからご年配の方まで、

大野和士の指揮する都響の本格的なサウンドを体いっぱい感じてほしい。

もうひとつは、その名も「音楽祭メインコンサート」。今年はシェイクスピアの名作を題材にした劇的交響曲《ロメオとジュリエット》がメイン・メニュー。大編成のオーケストラと、バレエや歌で華やかに繰り広げられる迫力のパフォーマンスを、たっぷり楽しんでいただきたい。

コンサートホールでは、東京芸術劇場が世界に誇るパイプオルガンのコンサートも開催。この公演には、芸劇を拠点とし、視覚や聴覚にハンディキャップを抱えた子どもたちを中心メンバーとする「東京ホワイトハンドコーラス」も出演。生き生きとした音楽表現で日頃の成果を披露する。

シアターイーストでは、スイスのバーゼル歌劇場からやってくる「ベイビーオペラ『ムルメリ』」を上演。自然の音、人間の声、歌と動きを通じ、0歳から満2歳未満までの子どもたちが特別な音体験を味わう。

昨年、長蛇の列で大人気となったさまざまなワークショップ。今年も思い切り体を動かすダンスや、発声の基礎から学ぶ歌、憧れのオーケストラの楽器体験、自分だけのマイ楽器製作、子どものための作曲教室、AIを駆使した指揮体験でバーチャルな都響と共演できるステージなどなど、子どもも大人も夢中になってしまうコンテンツがそろそろ。

なお、3日間のメインプログラムの後も、「サラダ・スペシャルコンサート」と題して、9月19日には都響がゲーム音楽とコラボレーションする「ドラクエ・シンフォニックコンサート in SaLaD」を開催。作曲家すぎやまこういちが指揮者として登場する。10月27日には日比谷公園大音楽堂(日比谷野音)での無料コンサートも企画されている。

来たる2020年に向けて、文化芸術イベントもますます盛り上がりを見せている。東京が発信する音楽イベントを多に楽しもう!

文:飯田有抄(クラシック音楽ファシリテーター)

#### <メインプログラム>

- **OK!オーケストラ 赤ちゃんOK!歌ってOK!踊ってOK!** 詳細はP17へ  
9月14日(土) 11:00開演・15:00開演 コンサートホール
- **ベイビーオペラ『ムルメリ』** 詳細はP18へ  
9月14日(土)・15日(日)・16日(月・祝) シアターイースト
- **楽器体験や歌・ダンスのワークショップなど/会場周辺でのさまざまなミニコンサート** 詳細はHPへ

- **音楽祭メインコンサート《ロメオとジュリエット》** 詳細はP17へ  
9月16日(月・祝) 14:00開演 コンサートホール
- **オルガンでLet's SaLaD!** 詳細はP17へ  
9月15日(日) 14:00開演 コンサートホール
- **楽器体験や歌・ダンスのワークショップなど/会場周辺でのさまざまなミニコンサート** 詳細はHPへ

#### <サラダ・スペシャルコンサート>

- **ドラクエ・シンフォニックコンサート in SaLaD** 詳細はP17へ  
9月19日(木) 19:00開演 コンサートホール
- **SaLaD野外コンサート(仮称)** 詳細はHPへ  
10月27日(日) 日比谷公園大音楽堂

サラダ音楽祭公式サイト  
salad-music-fes.com